

令和4年度 第4回 愛宕小学校 学校運営協議会 実施報告

1 日 時 令和4年12月6日（火）13：30～16：00

2 場 所 愛宕小学校 本館2階 会議室

3 学校保健委員会

○学校より

- ・ よい歯のコンクールで、本校6年児童が県の優秀賞に選ばれた。
- ・ 11月前半、体育の授業中、休み時間、登下校中の子どものケガが多かったが、全校で「廊下は静かに歩こう」という取組をしたところ、ケガの数も減少した。

○委員より

- ・ 11月にけがや骨折が多かったのはなぜなのか。子どもたちは、秋が深まるにつれて落ち着いてくるのではないかと思うが。
- ・ どこでどんなけがが多いのかマップで表すとよい。
- ・ 遊び方がわかっていないのではないか。
- ・ 人を押したらどうなるのか、きちんと話をすれば子どもたちはわかってくるのではないか。
- ・ 子どもたち同士で未然に防ぐ力をつける必要がある。

○学校より

- ・ 体育の授業内容についても研修を行い、けがを防ぐ力を身につけさせていけるよう改善を進める。子どもたちのスクリーンタイムが多いことも、体力低下やケガの増加と関係しているかもしれない。

○委員より

- ・ スクリーンタイムについて、SNSで仲間外しが行われる等、スマホを子どもに持たせることで様々な弊害がある。何らかの提言や取組をしていく必要があるのではないか。
- ・ スマホを使うルール作りが大切。親と子どもが話し合っ決めていくことが大切だ。

○ご助言

【学校歯科医】

- ・ 歯の状態から、親のネグレクトがわかることもある。学校が、親に働きかけをしていくように。
- ・ スクリーンタイム削減について、学校として具体的な目安は明確にしているか。メディアの利用が必要な面もある。最終的な目標を設定した上で取組を行い、その上でアンケートをしていくと、改善につながる。経年比較ができるようにしていくことも必要だ。国や市の指針はあるのか。

【学校薬剤師】

- ・ アンケートが、スクリーンタイムの削減にばかり目を向けていないか。読書を推進していくことで、スクリーンタイムが削減され、学力として必要な読解力を養う

ことにもつながるのではないか。

- ・ 「本を読まないから、どんな本が良いかわからない。」という意見が親からもあるが、子どもと同じ本を読んだらよい。現在の家庭では、親も子もスマホをいじってばかりいる。まず、親がスマホをいじることをやめることから始める。そして、親が読書をして、子どもが読書に目を向けるようにしていく。
- ・ 子どもが学校図書館で本を借りて感想を書いたら、シールを与えて貼らせていくとよい。自分の努力の積み重ねを視覚的に実感させ、喜びをもって読書に取り組んでいくことができる。たくさんの読書を通して、読書自体の楽しさにも気づいていくことができると思う。
- ・ 食事と睡眠と運動が健康の基本。満腹になるからと偏った食事をとることが、肥満にもつながる。まずはバランスの良い食事が大切である。

4 学校運営協議会

① あいさつ

【委員長】

児童に骨折などのけがが多いと感じている。その子たちを見ていると、つらく悲しい。自分の安全を守るよう子どもたちに意識づけをし、体を鍛えてほしい。

【校長】

3年ぶりに様々な行事を行えている。マラソン記録会に感動したとの声を保護者からいただいた。体育振興会主催の「わくわく体験ニュースポーツ」で学ばせてもらったTボールのルールを工夫を、6年生が体育の授業に取り入れている。

② 協議

○来年度の学校行事予定について

- ・ 学校や地域の行事予定をバランスよく決めていき、計画的に取り組むことができるようにしたい。
- ・ 来年度の海岸清掃ボランティアも、今年度と同様に、児童・保護者の任意参加で行う。
- ・ ライブイン愛宕は、子どもたちが参加することで、とても盛り上がった。体育館の外で出番を待っている時の態度もよかった。

○危機管理マニュアルについて

- ・ 記載の安心安全マップを最新のものに更新していく。
- ・ 避難場所の記載が多い。もっと絞ってシンプルにし、「津波から逃れるためには、江島総合スポーツ公園へ行く」と子どもたちに徹底する方がよい。学校での垂直非難の訓練も行った方がよい。
- ・ マニュアルを作るだけに終わらず、子どもたちにも伝え続けることが大切である。マニュアルは、不断の見直しをしていきたい。

○スクリーンタイム削減

- ・ スマホの持たせる時期やスマホとの付き合い方等は、PTAと話し合いながら、

丁寧に啓発していき、保護者の意識を高めていくことが望ましい。

- スクリーンタイムが多くなっているのは、コロナ禍であることも影響している。スクリーンタイムを削減して読書を進める等、実現できそうなことから少しずつPRしていくとよい。
- 家庭教育学級への保護者の参加が少ない。PTAにもっと働きかける等、関心を持ってもらえる努力を。

③ コミュニティ・スクール推進コーディネーターより

スクリーンタイム削減は、全ての学校の運営協議会で話題になっている。鈴鹿市では、全国学力・学習状況調査の結果から、スクリーンタイムが全国平均より多く、読書量が少ないことが明らかになった。そのことが、学力に影響を与えていることも分かった。また、スマホ保有の低年齢化が進んでおり、ネットトラブルが小学校で増加している。小学生はネットモラルの認識が甘く、保護者への働きかけが大切になる。学校運営協議会を中心に、保護者を巻き込んで、これらの課題の解決に取り組まなければならない。